



混雑、品薄…心砕く

新型コロナウイルスの感染拡大で、不要不急の外出を控えた各家庭の多くは自炊中心の生活になりました。客足が伸びたスーパーでは、混雑や品薄・欠品などに心を砕いています。

①スーパーの3月売上高は、前年同月に比べて約何割伸びましたか？

約1割

②現在、入荷が滞りがちになっている商品は？

ハンドソープなど衛生

商品や、カップ麺、小麦

粉など一部食品

③店頭立つスーパーの店員にとって、日々の大きな支えになっていることは？

「ありがとう」と声を掛けられること。地域住民らのさりげない気配りと心遣い。

④「3密」とは何ですか？ 「3密」を避けるために、あなたの周りで取り組んでことを挙げてください。

密閉、密集、密接。

窓を開ける、室内の人数を減らす、机を離す、向かい合わせに座らない…など

周囲の取り組みに目を向けてみましょう。



自宅で過ごす人が増え、外食の機会もめっきり減った。スーパーの棚は空きが目立つようになった＝臼杵市のマルミヤストア野田店、撮影・鎌手美和

コロナ禍を歩く

ルポ おおいた

玉葉俊店長46は急を腰を

ニンジんにゴボウ、豚の細切れ。買い物かごの中に品物が積み重なっていく。午前10時すぎ。臼杵市野田のマルミヤストア野田店は、近々の住民たちで活気づいていた。店内を回って回っていた玉葉俊店長46は急を腰を

かがめた。バスターコーナールの乾麺やソースが品切れのようだ。陳列棚には所々、空きがある。「常に商品を並べておきたいんですが」。申し訳なさそうに言った。生鮮品や惣菜順調

新型コロナウイルスの感染拡大で自粛ムードが続き、不要不急の外出を控えた各家庭の多くは自炊中心の生活になった。暮らしに欠かせないスーパーでは肉、魚、野菜などの生鮮食品や惣菜が順調に売れる。調理が簡単で保存の利くレトルト食品や、自宅で過ごす休日のお供となるスナック菓子も人気を集めている。

全国的な業界3団体が、加盟するスーパー270社・8018店舗に聞いた3月の売上高（速報値）は計約96億3877万円。前年同月の約88億4977万円から1割ほど伸びた。一方で「品薄や欠品、混

雑などへのクレームに悩まされる店も多い」と日本スーパーマーケット協会の担当者は語る。3月に店頭からトイレットペーパーが消えたのは記憶に新しい。今はハンドソープなどの衛生商品、カップ麺、小麦粉といった一部食品の入荷が滞りがちになっている。

「混雑しない時間帯の来店をお願いしたいが、どうすればいいか」。大塚和成店長49は悩む。さりげない一声に「ありがとう」と声を掛けられることが増えた。地域住民らのさりげない気配りと心遣いは、店頭立つ日々の大きな支えになっている。

客足は絶えない。それでも「なじみのお客さんの会話は減ったように感じますね」。レジ係のバート陶山口登美さん(49)はビニール越しにおつりを差し出した。(大塩信) 随時掲載

レジには飛沫を防ぐ透明のスクリーンが設置されている。食品スーパーの業界団体や農林水産省は、買い物についてマスクを着用し、少人数で来店し滞在時間を短くする▽混雑を避け、不要な問合わせや買いためはしない▽とを呼び掛けている。県は密閉・密集・密接の「3密」を避けるため、買い物回数を減らすよう促している。

自炊増え客足伸びたスーパー

ビニールを取り付け、会計待ちの客同士が近づきすぎないよう床に2層間隔の線を引いた。それでも行列ができる心配になる。国は接触機会の8割減を訴え、「入場制限をしないのか」といった苦情を受けることもある。